

「 熊本医療センターにおける術後の悪心・嘔吐の発症とリスク因子の関係についての後方視的調査 」

○研究の概要

令和4年度診療報酬改定より、周術期薬剤管理加算が新設されました。熊本医療センター（以下当院）は、医師の業務負担軽減と薬剤師間の情報共有を確実にするため、周術期薬剤管理業務を開始しました。周術期管理とは、手術中だけでなく、その前後の期間（入院、麻酔、回復）も含めています。術後有害事象のうち、術後の悪心・嘔吐(Postoperative nausea and vomiting : PONV)は周術期合併症の中で最も一般的であり、その発症頻度は30%と報告されています。PONVは患者にとって大きな苦痛となり、患者満足度の低下だけでなく、予期せぬ入院期間の延長や医療費の増加の可能性があるため、常に対策が求められています。具体的には、日本病院薬剤師会の「周術期患者への薬学的管理ならびに手術室における薬剤師業務のチェックリスト」やPONV対策第4版コンセンサスガイドライン(以下ガイドライン)に基づいたリスク因子評価とそれに応じた対策を実施する必要があります。当院では標準化されたPONVリスク因子評価システムの構築が不十分であると考えられました。

今回、適切なPONV対策をおこなうため、PONV発症状況を調査し、評価方法についての課題を明らかにします。本研究は、安心・安全な手術を提供するための薬剤師業務の発展に貢献できると考えます。

○研究の目的と方法

本研究は、当院におけるPONVの発症状況とその関連するリスク因子評価について現状の課題を明らかにし、適切なPONV対策を確立することを目的としています。

2024年5月1日～2024年10月31日において、当院での14歳以上の全身麻酔症例患者1033名のうち、調査項目のデータ欠損が無い602名を対象に調査を行います。調査項目は、PONV発症、性別、年齢(14歳以上)、術式(婦人科・胆嚢摘出・腹腔鏡手術)、喫煙歴、乗り物酔い歴、術後オピオイド使用、疼痛とします。PONVは術後24時間以内のカルテを閲覧し、悪心や嘔吐の記録があるものと定義しました。PONV発症有無群、PONVリスク因子有無群、ガイドラインによるリスク分類をしたPONV発症有無群、ガイドラインに沿った予防策数十分群・不十分群、それぞれの関連性を調査するために、 χ^2 検定を用い、有意水準5%以下として統計解析を行います。

○本研究の参加について

これにより患者様に新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

○調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。患者様の個人情報(氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

○実施期間

研究対象期間：2024年5月1日～2024年10月31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～2026年1月17日まで

○研究成果の発表

調査した患者様のデータは、集団として分析し、学会で発表します。また、個々の患者様のデータが発表される際も、個人が特定されることはありません。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 薬剤部 江口遥菜

○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 薬剤部 江口遥菜

○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 薬剤部 江口遥菜 電話番号：096-353-6501